

かゝる時に際し、労働農民党として真に鞏固なる階級党をらしめ、日本農民党、社会民衆党より如き反動的政変を撃滅し、労働大衆を全面的政治闘争に動員せしむることは刻下の緊急事であるにも拘らず、麻生、望日氏等が新に日本労働農民を組織し、労働農民党と別個の分野を作らんとすべしと云はば、正に我々に對する挑戦であり、労働統一戦線の攪亂を策すべしと云はざるを得ず。

我々は、日本労働農民の指導者諸君が、若しも亦だ階級の協同戦線主義に對する誠意を捨てありらば、速かにその政変を解体して労働農民党の陣営に参加すべきことを信ずるものあり。

一九二六・一二・一。

統一運動 創立大会 全国同盟

所謂労働農民総聯合反對声明書

日本労働農民が随分又れの前日八日、中同派と自称する労働組合同盟、組合総聯合、同業同盟、自治会、製陶同盟、農民組合等の一割幹衆は、労働農民の経済的総聯合の下の準備会を組織した。その目標とするところは、労働農民の経済的総聯合であると云ひ、「互翼小児病」と共に「互翼小児病」をも排撃し、政治的には日本労働農民を支持するものなることを言明してある。

惟小に労働農民の経済的総聯合の計画は、去る六月を以て、互翼幹衆の分裂政策によつて破壊された。併し、互翼団体大衆及び中同団体大衆の此の分裂政策に對する闘争は、互翼大衆の全面的闘争が展開し、階級的精神の自覚が漸次高まりんとするや、彼ら互翼幹衆は、労働階級の利害に對する関心を失ひ、彼らが「労働階級」と称する小カルジヨア層に没身して意識的友動化に向つた。之に對し勇敢に闘ひ、あくまで階級的精神を失はなかつたものは労働農民党と同一統一運動同盟とである。

労働農民党第四回中央委員会に於ける撤退は、友動化せる互翼幹衆が階級的政策を捨て、小カルジヨア党に轉向せんとする意識的裏切りであった。不幸にして此の時、所謂中同派団体と称するものも互翼幹衆に卷きこまれ階級的単一政変を撤退したのだから、彼らは此の時、協同戦線は互翼幹衆の争ひによつて破壊されたと自ら憐れた。而して彼らは、協